

平成 25 年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立琴の浦高等特別支援学校

中長期目標 (学校ビジョン)	キャリア教育に重点を置き、地域の中で職業的に自立するとともに、主体的に活動、社会参加し、社会に貢献できる人を育成する。そのために、学校生活の基礎基本を確立し、主体的に活動しようとする意欲を育てる。
---------------------------	--

今年度の 重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎基本の確立と、意欲の涵養 ○社会人としての基礎力の育成 ○熱意と工夫を持った新しい学校の創造
----------------------	---

		年 度 当 初			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	
基礎基本の確立・ 意欲の涵養	教務部	○年間指導計画の見直し修正及び次年度の計画の作成	○計画を実践に移す段階でありすべての面で検証が必要である。	○継続した週案の作成及び活用ができています。 ○年間指導計画の修正と来年度分の整備が完了している。	○週案の活用状況の分析と活用方法の周知 ○今年度分の使用状況分析の実施
	学年部	○挨拶の励行 ○生徒の意欲を育てる行事の企画	○挨拶をしようとする生徒が増えつつある。 ○やる気は感じるものの損得感情が先に来る生徒が多い。	○100%の生徒が朝の挨拶を自分からしている。 ○5割以上の生徒が行事(宿泊学習、宿泊訓練、現場実習、学校祭等)の達成感を感じている。	○学年スローガン等による意識付けと教員の見本 ○行事の目的、スケジュール、ふりかえりなどの伝え方の工夫と、行事終了後のアンケートの実施
	生徒指導部	○大阪府立たまたがわ高等支援学校との交流	○自分の将来像、学校像をイメージできにくい。学校生活を創り出すイメージを持たせたい。	○参加生徒が交流に満足し、先輩像をイメージできている。	○事後アンケートの実施。事前事後指導の充実
	生徒指導部	○生徒指導体制の確立 ○学校生活に主体的に取り組む生徒の組織作り	○不登校や障がい等によって、自己肯定感が十分育っていないが、入学を契機に自分を変えようと考えている生徒が多い。	○基本的な生活習慣の定着と規律あるいじめのない集団作りができています。 ○生徒会・委員会・部活動が立ち上がっている。	○生徒指導体制及び生徒心得の職員間の共通理解と一貫した指導の実践 ○いじめ、学校生活に関するアンケート調査の実施 ○生徒との話し合いによる生徒会・委員会・部活動の立案、組織作り
	生徒指導部	○県内 4 養護学校との交流によるリーダー育成		○生徒会・委員会活動へ意欲的に参加している。	○生徒 8 名の参加と事後の満足度や学校での取り組みについてのアンケート調査の実施
社会人基礎力の	保健指導部	○心身ともに健康で安全な生活ができる生徒の育成	○健康診断の結果から、基本的な衛生習慣が確立していない生徒が多い。 ○入学前に不登校経験生徒が 5 名	○インフルエンザ等の集団感染を起こさない。 ○長期欠席者をださない。	○健康観察の充実、日常的な手洗いの励行、咳エチケットにより感染拡大を防ぐ ○スクールカウンセラー、生徒指導部、担任、養護教諭等との連携

様式2

育成	寮務部	○寄宿舎生活マイスター制度の確立	○寄宿舎生活のきまりを説明、指導している段階。きまりを意識して守ることは、よりよい生活につながるということに気づいて欲しい。	○寄宿舎生が生活マイスター制度を理解して生活している。	○寄宿舎マイスター制度の整備 ○マイスターについて生徒の理解、意欲を促す工夫
	進路指導部	○生徒、保護者の実態、ニーズに沿った現場実習の運営	○企業開拓はある程度できているが、生徒の実態、ニーズとのマッチングができていない。 ○生徒が勤労についてのイメージがなく、明確な進路希望を持っていない。	○生徒の実態、ニーズに沿った企業の開拓ができている。(新規実習受入可能企業東中部各20社、西部30社) ○生徒の実態把握ができている。生徒が就労のイメージを具体化できている。	○外部向け現場実習実施要項、実習依頼のちらしの作成・配布。 ○各圏域就労サポーターとの連携 ○進路部による個別面談の実施により、生徒の実態、進路希望の把握。
新しい学校の創造	地域支援部	○企業に向けての学校PR活動	○昨年度は就労セミナーの宣伝活動が不十分であった ○参加企業より「毎年同じことでは」との意見があった。	○東部10社、中西部各20社以上の企業が参加し、半数以上から高評価を得る。 ○企業とのネットワーク作りの基盤ができている。	○倉吉養護学校、産業人材育成センター及び企業関係者と連携した実行委員会の立ち上げ。セミナーの内容について新たな企画の取組。 ○月1回の実行委員会の実施
	総務部	○入学選抜に関する取組のシステムづくり	○入学選抜に向けての手続きが十分周知できていない。学校説明会や体験入学、相談会などのシステムを明確にし、中学校等にわかりやすく情報提供する必要がある。	○選抜までの流れを整理し、積極的でわかりやすい情報提供ができている。(志願者相談会の参加者60人以上)	○校内外に取組の内容が伝わるよう、文書やホームページ等で情報発信を行う。 ○学校説明会、体験入学、志願者相談会、生徒対象説明会をスケジュールに沿って開催する。
	総務部	○校外に向けた積極的な情報発信 ○地域(鳴り石の浜プロジェクト)連携	○開校後の取組状況について、学校関係者、地域、企業などに対して積極的な情報発信が必要である。 ○学校の取組への支援者(企業や地域住民など)を増やし、教育活動を充実させたい。	○保護者、関係者の7割以上が情報提供に満足している。 ○鳴り石の浜チャレンジプロジェクト関係の事業について参加生徒・関係者の8割以上が満足感を感じている。	○学校公開、学校説明会、学校HP、学校通信の充実。 ○満足度アンケートの実施 ○専門教科の実習、生徒会関係の行事など、積極的に地域に学習の場を設定。

評価基準 A: 十分達成 [100%] B: 概ね達成 [80%程度] C: 変化の兆し [60%程度] D: まだ不十分 [40%程度] E: 目標・方策の見直し [30%以下]